

川越町の現状分析と今後のまちづくりの主要課題

I. 川越町の状況…データから見る川越町の状況より

①人口

- ・平成2年以降人口、世帯数は増加。今後も人口増加が続くと予想。
- ・国全体の構成比と比較すると、年少人口割合が16.0%と高く、65歳以上老年人口割合は18.5%と低いが、着実に少子高齢化が進行。
- ・出生数が死亡数を上回る自然増が過去10年間で続いている。転入数が転出数を上回る社会増が続いていたが、平成29年に社会減に転換。
- ・昼間人口が夜間人口を平成22年まで上回っていたが、平成27年は夜間人口が上回っている。流入・流出ともに四日市市、桑名市、朝日町などが多く、流出では名古屋市も比較的多い。

②産業

- ・事業所数と従業員数は平成21年以降横ばいで推移。
- ・就業者数は増加傾向で、平成27年度では、第1次産業が0.8%、第2次産業が36.8%、第3次産業が62.4%で第3次産業のみ増加傾向。
- ・産業別では、製造業、卸売業・小売業、建設業の順で企業数が多く、売上高では製造業、運輸業・郵便業、小売業の順となっている。
- ・農家数は減少傾向で、自給的農家が大半を占める。

II. 住民意識調査結果…住民意識調査結果より

- ・住みやすいと感じる人は86.5%、今後も住み続けたい人は89.9%で、前回調査に比べても上昇。
- ・定住理由は「家や土地がある」、「住み慣れて愛着がある」などで、移転したい理由は「交通が不便」、「実家に戻る」などが理由。
- ・施策の満足度と重要度から見た重点改善項目としては、「津波対策」「水害対策」「地震対策」「交通安全対策」「防犯対策」「歩行環境整備」などの命や財産を守る施策への関心が高い。
- ・将来イメージとして、「災害に強いまち」、「人にやさしいまち」を望む。
- ・定住促進策では「医療や福祉の充実」「防犯・防災対策」を望む。
- ・産業振興策では「空き店舗等での起業支援」「既存工場・企業等の安定化や高度化」を望む。
- ・就業対策では「企業誘致」や「事業所の就労環境の改善」を望む。
- ・災害対策では「津波対策」「備蓄品の確保」「避難路や避難場所の整備」を望む。
- ・環境対策では「公害防止対策」、「廃棄物対策」「エネルギー対策」を望む。
- ・子ども・子育て施策では「医療体制」「子育てと仕事を両立できる職場環境」「保育所・幼稚園での多様なサービス提供」を望む。

III. 社会経済動向の整理（⇒：求められる対応）

①人口減少社会への対応…川越町を取り巻く社会経済動向の整理より

- ・少子高齢化の急速な進展による生産年齢人口の減少や消費の落ち込み
- ・東京圏への人口の一極集中の是正（若い女性の集中）
- ・新たな地域の担い手づくりの必要性
⇒単身世帯、外国人の増加に伴うコミュニティ対策
⇒地域固有の施策展開による女性の定住促進、関係人口の獲得

②高齢社会の進行

- ・後期高齢者、要介護者の増加による医療・社会保障費の急増
- ・単身や夫婦のみ高齢者世帯の増加、空き家の増加
⇒介護予防・在宅医療・在宅介護の推進
⇒高齢者の生活支援・移動支援、空き家対策の推進

③スーパー・メガリージョンの形成

- ・リニア中央新幹線の整備による高まる期待とストロー効果への懸念
⇒名古屋駅へのアクセス強化
⇒産業技術集積を生かした産業の競争力の強化

④グローバル競争の激化

- ・グローバル化の進展による技術開発、人材確保競争の激化
⇒製造業の生産性低下に対応した企業のイノベーション支援、起業支援

⑤AI、IoTなどの新技術の普及

- ・地球規模でICTが浸透し、企業のビジネスやライフスタイル分野での大きな変化
- ・IoTとAI応用の可能性拡大
⇒情報発信やコミュニケーションにおけるICT活用
⇒効率的な都市システム、産業イノベーション、業務改革、ライフスタイルの検討

⑥観光交流の推進

- ・インバウンドの拡大
⇒町の魅力発掘・発信

⑦インフラの老朽化対策

- ・更新時期を迎える大量の公共施設・インフラ維持管理・更新コストの増加
⇒公共施設のマネジメント強化

⑧安全・安心な暮らしの実現に向けたリスク管理

- ・気候変動による集中豪雨・土砂災害頻度の増加、巨大地震発生の危険性
⇒水害対策、津波対策、減災対策、復旧・復興対策（国土強靱化）
⇒災害復旧・復興のための地域の自助と共助の強化

⑨SDGsを目指す動き

- ・地球温暖化対策（再生可能エネルギー導入）、循環型社会形成、生物多様性
⇒持続可能性を高めるための都市づくり、産業イノベーション

⑩多様性を認め合う社会づくり

- ・留学生、高度外国人材、外国人労働者の受入れ拡大
⇒外国人の生活支援
⇒地域における多文化共生、国際理解教育の強化

⑪新しい公共の創出

- ・公共サービスへの住民ニーズの拡大
- ・権限移譲等で基礎自治体の業務拡大
- ・高齢化等に伴うコミュニティの担い手不足、住民同士の相互扶助の低下
⇒持続可能な行政改革の推進

IV. 団体ヒアリング、若者会議

- ・実施後、追加予定

V. 第6次川越町総合計画後期基本計画の評価…施策の実績・評価より

1. 便利で活力のあるまちづくり

- ・交差点カラー舗装、歩行者専用舗装事業は着実に進展しており、今後もカラー舗装及び歩道整備による歩行者環境の整備が必要。
- ・ふれあいバスの利用者数は年々増加傾向にあるが、現状の運行体制では限界があることから、デマンドタクシーなどの新たな運行形態の検討が必要。
- ・農業の担い手が町内にいないため、町外も含めて担い手の確保が必要。
- ・インター周辺の点在する空閑地を有効に活用した企業立地の促進が必要。

2. 安全で快適なまちづくり

- ・子ども広場の整備が進み、全地区で公園が整備された。しかし、一人当りの公園緑地面積は目標に達していない。
- ・高松海岸の駐車場・トイレが整備され利用しやすくなった。今後は海岸の保全と施設の適正管理が必要。
- ・朝明川・員弁川の雑木と朝明川の土砂の撤去事業が進展した。今後も継続的な実施が必要。
- ・安定した経営と災害に強い上下水道とするために、管路の耐震化の計画的実施と適正な投資計画、料金体系の検討が必要。
- ・堤防や水防倉庫の整備など、津波・高潮・洪水対策が図られた。今後は、朝明川・員弁川の堤防のコンクリート化、津波避難タワーの整備、自主防災組織の活性化、防災情報の新たな伝達方法の検討など、自助・共助・公助の防災対策の強化が必要。
- ・ごみの減量化、リサイクルは進展したが、今後さらに推進するために環境学習や環境意識の啓発が必要。

3. 健康で安心な暮らしを支えるまちづくり

- ・町の健康体操「キラキラ体操」が町内各団体で取り込まれるようになってきたが、今後もさらに周知して町民の健康意識の向上が必要。
- ・ボランティアや福祉協力員等の地域福祉の担い手の養成が進展しており、今後は地域福祉の推進地区を拡大することが必要。
- ・低年齢児保育の拡大、一時預かり事業の利用者の増加等各種の子育て支援によって充実した支援サービスが提供されている。
- ・保育ニーズに対応するため保育士の確保と適正配置、認定こども園の検討が必要。
- ・生活・介護支援サポーターの養成が進んでおり、今後は民生委員や福祉協力員と連携して生活の困りごとに対応できる環境の整備が必要。
- ・障害者の就労を目的とした農福連携事業を検討しており、その実現に向けて取組が必要。
- ・発達支援が必要な子どもが年々増加しており、早期発見、療育環境の整備が必要。

4. 人と文化を育むまちづくり

- ・基礎学力充実非常勤講師、支援員、ALTを確保して、教育の充実を図った。
- ・施設の老朽化が進む中、効果的な手法による改修や中学校の建て替え計画の策定が必要。
- ・中央公民館、あいあいセンターの老朽化が進んでいるため、中長期計画に基づき施設の改修、機能の複合化の検討が必要。
- ・スポーツ施設の老朽化対策、総合体育館のバリアフリー化が課題となっており、計画的な設備更新、改修の検討が必要。
- ・あいあいホールの自主公演で多様な芸術・文化に触れる機会を提供している。
- ・町の文化・歴史を伝える資料の保管・展示スペースの確保が必要。
- ・女性の目線での避難所運営、多言語による災害情報の提供等、男女共同参画、多文化共生の視点の防災対策が必要。

5. 協働による自立した地域運営のまちづくり

- ・自治会活動は活発に行われているが、ボランティア団体等の自主的な活動団体は増えていないので、活動の担い手を増やす制度の検討が必要。

川越町の特長（強み、弱み）の整理

	川越町の特長（強み）	川越町の問題点（弱み）
産業 活力	<ul style="list-style-type: none"> ○人口増加傾向を維持 ○若い世代の転入が多い ○高齢化率は県内で最も低い ○臨海部に工業集積地を形成 	<ul style="list-style-type: none"> *若い世代の転入も多いが転出も多い（社会減の年もある） *通勤通学流動では流出超過 *事業所数は頭うち
土地 利用	<ul style="list-style-type: none"> ○限られた行政区域の中で、住宅地、工業地、商業地を形成 ○貴重な自然海岸（高松海岸）が残っている 	<ul style="list-style-type: none"> *緑地、農地の自然系用途の面積が少ない *埋め立てによって海岸線との距離が離れている ⇒潤い環境が少ない *住宅用地、産業用地の開発余地が少ない *津波の浸水危険地域が広がっている
都市 基盤	<ul style="list-style-type: none"> ○伊勢湾岸自動車道（みえ川越IC）、国道1号、国道23号、四日市いなばポートライン等の優れた広域交通条件を有する ○川越富洲原駅があり、鉄道による利便性を有する ○大部分の下水道整備が完了 	<ul style="list-style-type: none"> *狭あいな生活道路が多い *歩道のない道路が多い *一人当たりの都市公園面積は少ない
文化	<ul style="list-style-type: none"> ○優れた音響設備を有するあいあいホールで、町外からも観客が集まる催事を開催 ○伝統的な祭り（石採祭など）が継承されている 	<ul style="list-style-type: none"> *中央公民館等文化、スポーツ施設の老朽化が進展 *図書館機能が弱い *地域の歴史・文化資料を保存・継承する施設が未整備 *観光資源が乏しい
生活 環境	<ul style="list-style-type: none"> ○保育所（園）、児童館、子育て支援センター、学童保育施設等が充実 ○子育て支援施策が充実 ○生活利便施設が身近にあり、利便性の高い生活環境を形成（住みやすさの評価も高い） 	<ul style="list-style-type: none"> *中核病院は町外に依存（人口当たりの医師数が少ない） *住宅開発は個別開発が中心で質の高い住宅地としてのイメージが弱い *人口当たり交通事故件数、犯罪認知件数、火災件数が県平均よりも多い
地域 社会	<ul style="list-style-type: none"> ○狭い行政区域の中で10自治会ごとに、身近に利用できる地区公民館があり自治会活動が活発 ○町民運動会など各世代が交流する場がある 	<ul style="list-style-type: none"> *若い人、転入者の地域活動への参加が少ない *自治会以外の自主的な活動グループの活動が少ない
財政	<ul style="list-style-type: none"> ○財政力指数、経常収支比率は県下でもトップクラスの水準にあり、財政基盤は安定 	<ul style="list-style-type: none"> *社会保障費、社会資本の維持更新費が増加

川越町の主要課題

課題設定の視点	主要課題
川越町の優位性をさらに磨き上げ、川越町の魅力を積極的に発信	<p>◇「子育てしやすいまち」の魅力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利便性の高い子育て関連施設、充実した子育て支援策の特徴を活かし、子育て世代や世代間の交流の場、きめ細かい相談体制などを一層充実し、安心して楽しく子育てができる魅力づくりと魅力の発信が必要
	<p>◇優れた広域交通条件を活用した地域活性化の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊勢湾岸自動車道（みえ川越IC）、国道1号、国道23号、四日市いなばポートライン等の優れた広域交通条件を活用し、事業所などを中心とする都市機能向上を図るために未利用地の有効活用が必要
川越町の弱み、課題を解消し、川越町の強みへと転換	<p>◇子どもの成長とともに定住したくなる魅力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代の転出を防ぐために、学校教育の充実、子どもの体験機会の充実、図書館等文化施設の充実など、子どもが成長しても定住できる魅力の向上が必要
	<p>◇安全・安心できる生活環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被害が予想される大規模地震や集中豪雨などの災害から町民の生命と財産を守る各種防災対策の充実、防犯カメラ設置等の防犯対策、交差点・路側帯の改良等による交通安全対策の充実など、安全・安心な生活環境の整備が必要
	<p>◇地域の担い手の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転入者が多く地域との関わりが少ない住民が多くなっていることから、地域の産業・企業、歴史・文化、地域活動に学び、体験できる機会を充実し、地域の産業や地域活動の担い手を育成することが必要
持続可能な地域社会を支える基盤づくり	<p>◇誰もが暮らし続けられる地域社会づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障害者も含めて、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるように、健康づくり、介護予防の推進、地域における共助の仕組みの充実、農福連携等による就労の場の確保等が必要 ・ふれあいバスを含めた公共交通網の充実が必要
	<p>◇地域の力の維持・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会をはじめ各種団体・グループの活動を促進するとともに、団体・グループ間の連携や若い世代の参加を促し、地域を支える力の維持・強化が必要 <p>◇公共施設の計画的な更新・長寿命化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化が進む各種施設の計画的な更新・長寿命化を図るために、優先順位の基準に基づく修繕・更新・複合化、建物の定期的な点検と迅速な補修による長寿命化など、公共施設のマネジメントの仕組みの確立が必要